

ハクビシンとの戦い

今から 5 年以上前から私の家にハクビシンが来るようになりました。いつから家に住みついたのか正確には判りませんが、確か東日本大震災後ではないかと思います。時期が正確にわからない理由の一つに、お客様がハクビシンだと確証が得られるまでに時間がかかったことがあります。そして現在(2016 年)には確かに居なくなりました。

今回は、このハクビシンとの対決について記します。

最初は、夜になると家の横から天井裏にかけて、ネズミより大きな動物が侵入(外出)する音が聞こえました。音はこそこそとかパンパンという金属板をたたくような音とかいろいろありました。音の種類が違ったのは、私が侵入口を塞ぐ対策をした後ですから、おそらく侵入経路の建物の構造(狭い)によるものと思われます。ハクビシンは夜行性のために私は肉眼で彼(彼女)を確認したことはありません。途中で監視カメラの設置をしようと考えましたが、結局監視カメラを設置する前に、音がしなくなりました。

動物がハクビシンであることを確証したのは、各種の痕跡によります。まずハクビシンに関する本を入手しました(1)。

この本によるとハクビシンの痕跡の最大のものは、溜糞です。私の家はベランダから屋上にかけてキウイフルーツを育てていますが、その屋上に見事な溜糞がありました。



図 1 自宅 南側 左上が屋上



図 2 屋上ベランダ隅の溜糞

それからハクビシンは雑食性でなんでも食べる。食べ方に特徴があることが判りました。文献(1)によると、ハクビシンは樹についた状態で下から食害すると書いてありまし

た。私の庭先のみかんの被害状況はこれと一致していました(図 3)。



図 3 ミカンの食害状況

溜糞と食害状況から、侵入動物はハクビシンであることを確信しました。

ハクビシンがなぜ自宅に侵入したのかは自宅の改造に原因がありました。私の自宅は積水ハイムという規格品です。この建物は骨格構造が鉄骨ラーメン構造であり、地震や火災に強い事、工場生産であることから、品質管理もしっかりしているので、この方式を選びました(図 4(1))。



図 4(1)当初の外観



図 4(2)3F 増築、外壁追加作業



図 4(3)改築後

その後 3F と屋上(露天風呂),外壁などの増築を行いました(図 4(2),図 4(3))。このように改造した後ハクビシンが来るようになりました。想像では図 4(2)の天板(耐蝕波板鋼板)と新たに追加した木製の床との間に侵入したものと予想されます。侵入経路は、増築によって、建物の各所にできた空洞であることは明らかでした。

そこで、想定される、空洞(多数)を塞ぐ工事を行いました(自分で)。ところが塞いでは様子(結果)を確認しましたが、なかなか完全には止まりませんでした。

ある時は、侵入音を確認した後、掃除機の大音響を、3F 床上で、鳴らしましたが効果はありませんでした。これを行ったのは、ハクビシンが掃除機の音を嫌うことが文献(1)に載っていたことによります。我が家に來たハクビシンは都会慣れしていたのかも知れません。

ハクビシンを締め出す作業をしばらく(数年)続けているとき、庭にハクビシンの死体がありました。



図 5 ハクビシンの落下(?)



図 6 ハクビシンの腹に多くの寄生虫

落下していた場所は家の南側中央部に設置してあるキウイフルーツ用足場パイプの間でした(図 5)。足場パイプの間から取り出すと、腹が割れてその中に多くの寄生虫が動いていました。顔は確かにハクビシンです(図 6)。死体の処分方法を妻に相談したところ、燃えるごみとして出してもよいというので、黒い袋を二重にしてその中に入れ、さらに燃えるごみ袋に入れて出しました。

この時、ハクビシンとの戦いは終わったと思い安堵しました。そして何日か後に、妻にハクビシンの侵入音を聞いたか尋ねたところ、昨日音を聞いたというのです。

我が家にはさらに 1 匹ハクビシン(子供?) がいることが確認されました。そして、さらに塞がれていない侵入口があることも予想されました。しばらく侵入口の再調査を行いました、見つかりません。ある時の夕方、2F ベランダ沿いに動物らしき物体が高速で横切るのを見ました。直ちに追いかけて 3F の露天風呂まで行きましたが、見失ってしまいました。家の中(ねぐら)に入ったのか、または、壁伝いに地上に降りたのか判りませんでした。いずれにしても素早い行動でした。

しばらく後になって 3F 風呂場の水道パイプの元栓を開ける作業をおこないました。この作業は冬の間の凍結防止状態を元に戻すためのものです。この作業の際、ふと気がついたのですが、元栓部を収納する横蓋が外したままになっていました(図 6(2))。もしかして、ハクビシンはキウイフルーツの枝を上り 3F に出て、この部分から屋根裏に侵入するかもしれないと思い、調べると、確かに通路がありました。この部分は元の状態に戻す(図 6(1))だけで、通路は遮断できます。今度こそ、侵入口を締め切ったとおもいました。



図 6(1)屋上露天風呂 給水部(蓋閉)



図 6(2)屋上露天風呂 給水部(蓋開)

この処置後、また例のように、妻に音がしたか尋ねると、音がしたと言います。しかし

ながら、今度は 1F 風呂場の横壁あたりで音がすると言います。しかも音から判断すると、すこし窮屈そうな音がすると言います。このことを推理すると、ハクビシンは 3F 風呂場の通路を塞がれたため、別の狭い出口を探して出ていると思われます。

早速次の日風呂場の近くで出口らしき場所があるか、確認したところ、以前に煉瓦で塞いだ部分の一部が空間になっていることが判り、ここに土(砂利)を盛って完全に密封しました。



図 7 風呂場近くの通路遮断

ハクビシンは 6cm の間隙があれば容易にくぐり抜けると書いてありましたが(1)、その幅は 2~3cm ぐらいしかありませんでした。但し煉瓦を立てかけてあっただけなので、煉瓦を押し通ったとも考えられます。今度の対策でもうこれ以上通路は無いと思いました。

そこで、いつものように、妻に音が聞こえたか聞いたところ、意に反して、聞こえたと言います。

もう策は見当たらないので、しばらく放置していましたが、音はだんだん小さくなって、現在(2016 年 9 月)では、全く聞こえなくなりました。

音が聞こえなくなったということは、①ハクビシンは家を出てどこか別のねぐらをさがしたか、または、②我が家の屋根裏で死んでいるかのどちらかだと考えられます。音の消えたいきさつと、しばらく異臭がしていたことを考えると、②の公算が大ですが、3F の床を剥がして確認する作業はまだしていません。このままでも、何の不都合もないのでしばらくそのままにしておくつもりです。

これで、ひとまず、ハクビシンとの戦いは停戦です。

参考文献

(1) 古谷益朗著:ハクビシン・アライグマ おもしろ生態とかしこい防ぎ方、農文協

2016 年 10 月 3 日